

# 名刺挟んで交換会◆飲食店が蔵書貸し出し

## 本で広がる友達の輪

N38209

お薦めの本を橋渡し役に、様々な人と交流する試みが広がっている。本を紹介し合い、名刺を挟んで交換する「ブック交換」が全国のカフェなどで開かれているほか、蔵書をインターネットで公開して来店時に無料で貸し出す飲食店などのオーナーも増えている。主催者らは「好きなジャンルや紹介の仕方などで人柄が伝わる。友人もつくりやすい」と利用を呼び掛けている。



参加者が持ち寄った本を紹介し合い、名刺を挟んで交換する(6月、京都府長岡京市のカフェ)

### 人柄伝わりやすく

「先へ先へと、ついページをめくってしまう熱い本」「無駄だと言われてもやり続ける主人公に共感します」

京都府長岡京市のカフェの2階で6月に開かれた「ブック交換」。30〜50代の男女6人が、それぞれ持ち寄った数冊の本の魅力を5分程度で力説した。小説や絵本、マンガなど好みは様々。「ハマればがっつり、シリーズを読むことになるでしょう」などと紹介文も添えられ、名刺も挟まれていく。

「この本のフォントは素朴でレトロな雰囲気が出ている」などと本好き

主催できるため、カフェなどでも広がってきた。希望者は公式サイトに予定を掲示して参加者を募ることもできる。植田さんによると、今年1〜7月には全国で約50回開催。昨年の同時期より1・5倍に増えた。

同様に本を紹介し合っている「チャンプ本」を決める「ヒブリオバトル」も人気を集める。普及委員会事務局によると、今年1〜7月に全国の大学や図書館で約410回開かれた。

飲食店などの本好きオーナーが店内にある蔵書のタイトルをネットで公開し、無料で貸し出す取り組み「リブライズ」も広がる。利用者は読みたい本を検索し、来店して本を借りる。いわば小さな「図書館」だ。リブライズのサイトには全国約270カ所の約5万4千冊が登録されている。バイクや育児本な

ど、個性的なジャンルをそろえる店も少なくない。大阪府茨木市で東南アジア料理店を経営する脇本秀史さん(46)は今年5月にリブライズに参加。店内には旅行や民族学関連を中心に約500冊がそろっている。脇本さんは「本を目当てにわざわざ神戸からお客さんが来てくれたこともある。興味が似通った人の『たまり場』のようになっていけば」と期待を寄せている。